

## <台南芸術大学交換留学体験記 第一号 留学までの経緯>

2023年8月 三宅志佳

私は2022年9月から2023年6月まで交換留学で台湾にある台南芸大に在籍していた。体験記の第一号では留学に至った経緯について書いていく。

2020年4月に県大へ入学してから一年、楽しみにしていた学生生活はコロナ禍で大変退屈なものになっており、かなりうんざりした気持ちになっていた。何か生活に刺激を与える目標が欲しい、新しいことを始めたいと思い、春休みに始めたのが中国語の勉強である。私には日本語のぺらぺらな台湾人の友達が居るのだが、その人から台湾での生活や環境について聞いているうちに何が何でも台湾に長期滞在したいと思うようになった。丁度コロナ禍でやる事も無くて暇なので、これから中国語の勉強を初めて1年後に休学しワーキングホリデーで台湾に行こうと計画した。

学ぶ前は中国語への興味はあまり無く、ただ台湾に行きたい(=あくまでその為のツールとしての言語)という気持ちだけだった。しかし、始めてみると英語よりもスムーズに頭に入り、意外と面白かった。教科書を買って週に1-2回オンラインレッスンを受け、途中サボり気味の時期がありつつも細々と勉強を続けた。

12月頃、休学について学生支援班へ相談に行ったことから私がワーホリでの語学留学を計画しているとGLCへ伝わり、オンライン面談を提案された。そこで初めて、来年度から台南芸大との交換留学が始まる予定だと知らされた。コロナ前に学術協定を結んだのちオンラインでの交流以外ほとんど何も無かったが、そろそろ感染状況も落ち着きそうなので交換留学が出来るだろうという話だった。コロナ禍で制限されていたワーホリの再開目処が経っていないことや、交換留学なら親が生活費を出すとってくれたことが決め手となって、応募することに決めた。

ちなみに、面談をしたのは2022年の1月で、申請書類の提出締切は2月の半ば(締切を知らされたのは1月末)だったため準備は大急ぎだった。ポートフォリオや申請動機を書いた学習計画書、先生方からの推薦書も含め2週間ほどで用意した。申請書類は全てか英語が必須で、どちらにせよ正確な文章を書ける自信が無かったため一部は台湾人の友達に有償で翻訳をお願いした。

結果が分かったのは6月初めで、留学開始は9月。申請から結果が出るまでの間はそわそわしながら過ごした。

最初の頃に使っていた教材→



※この連載は月一回の更新、全11回の予定です。